

標 題 : Effects of Mediterranean Diet on Lipid Levels and Cardiovascular Risk  
in Renal Transplant Recipients  
腎臓移植患者における地中海食事の脂質値と心臓血管系疾患リスクに対する影響

---

著 者 : C. M. Barbagallo, et al. (イタリア パレルモ大学)

---

掲 載 誌 : Nephron 82: 199-204 (1999)

---

要 旨 :

**背 景 :** 腎臓移植患者は心臓血管系疾患の発症率が高い。この患者にはリポタンパク組成の異常が存在しそれが持続して人数の増加に関連するので、初期の治療的介入の機会が提案される。

**方 法 :** アメリカ心臓協会 Step 1 食事の基準に基づき 1 価不飽和脂肪と食物繊維の摂取を増した食事を 10~12 週間続けることの、脂質組成と脂質関連性の心臓血管系リスクに対する影響を、正常血中脂質および高血中脂質の腎臓移植患者 78 名で我々が評価した。

**結 果 :** 食事は、総コレステロール 10%、トリグリセリド 6.5%、LDL コレステロール 10.4%、LDL/HDL コレステロール比 10%の有意な低下をもたらしたが、HDL コレステロール値は変化しなかった。

ECEP〔全米コレステロール教育プログラム(EをExpertと誤記?)〕指針と LDL コレステロール(LDL-C)値によって腎臓移植患者をリスク分けすると、「良好な LDL-C」「境界性リスク LDL-C」「高リスク LDL-C」の患者で低下が次第に大きくなるのが観察された。しかし HDL コレステロール値はどの群でも変化しなかった。そして LDL/HDL コレステロール比は「境界性リスク LDL-C」、「高リスク LDL-C」の患者で有意に低下した(6.8%、 $p<0.05$  と 21.1%、 $p<0.0001$ )。

トリグリセリド値の低下は「良好な LDL-C」の被験者だけ統計的に有意であった(12.3%、 $p<0.01$ )。

「良好な LDL-C」の患者は食事試験前の 28 名(患者の 35.9%)から 45 名(患者の 57.7%、 $p<0.01$ )に増加し、逆に「高リスク LDL-C」は 24 名(患者の 30.8%)から 8 名(患者の 10.2%、 $p<0.005$ )に減少した。

**結 論 :** これらのデータから、腎臓移植患者で栄養的に血中脂質を低下させる可能性が正常血中脂質でも示される。

高コレステロール血症の患者数が増えるという腎臓移植患者での典型的な傾向を食事療法が逆転させる可能性が確認されたので、リスク/便益、費用を注意深く評価することによってさらに薬剤治療をする候補者を選ぶことが許される。

---